

環境経営レポート

2023年度

《 63期 》

【対象期間 2023年12月～2024年11月】



発行日：2024年11月25日

大邦テクノプラント株式会社

目 次

1. 組織の概要		P.1
2. 対象範囲		P.1
3. 環境経営方針		P.2
4. 環境管理実施体制		P.3
5. 環境経営目標・実績		P.4～5
6. 環境経営計画及び結果とその評価		P.5
7. 原価単位における実績とその評価		P.6～12
8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反訴訟などの有無		P.13
9. 代表者による全体の評価と見直し		P.13
10. 次年度の環境経営計画及び目標		P.14～15

1. 組織の概要

【事業所名】 大邦テクノプラント株式会社

【代表者名】 代表取締役 藤森 健

【所在地】 〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内 6 丁目 26-4

【環境管理責任者氏名及び連絡先】

環境管理責任者 : 池田 智亮
TEL : 082-876-0180
FAX : 082-876-1770
E-mail : info@taiho-t.co.jp

【事業活動内容】 電気設備・情報通信設備の設計・計画・工事

<建設業許可>

許可番号 広島県知事 許可（特-2）第 001229 号
許可の有効期限 2025 年（令和 7 年）10 月 14 日
建設業の種類 電気工事業、電気通信工事業
電気工事届出番号 広島県知事届出 第 46115 号

【事業規模】

設立年月日 1962 年（昭和 37 年）3 月 6 日
資本金 3,000 万円
完成工事高 454,873 千円
総従業員数 13 人（2024 年 11 月 25 日現在）
事業所延べ床面積 592.96 ㎡

2. 対象範囲

【認証・登録範囲】

対象事業所 : 本社
対象活動 : 全活動

3. 環境経営方針

〈環境経営方針〉

大邦テクノプラント株式会社は、電気設備工事を通して地域の環境保全活動に積極的に参画し、環境に配慮した経済活動を以て、従業員の安全と健康を第一に地域社会の発展と地球環境保全を目指して継続的な改善に取り組んで参ります。

〈行動指針〉

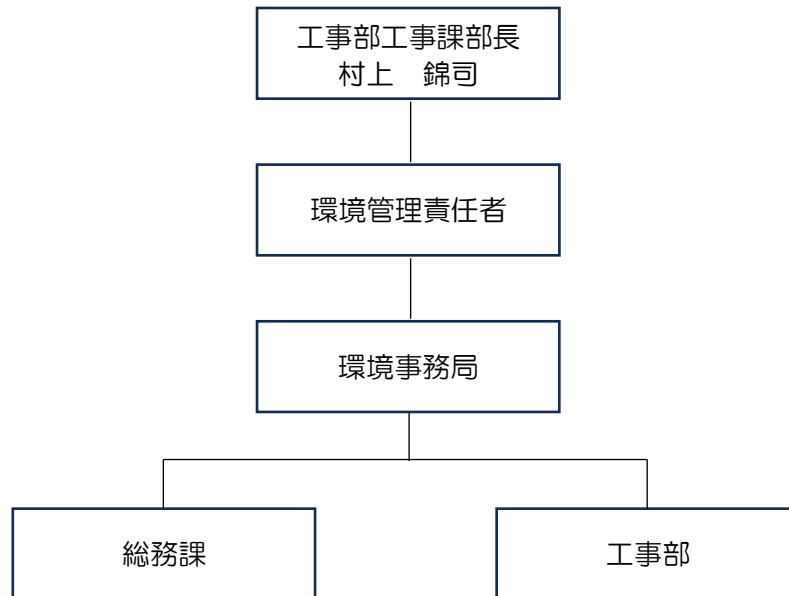
1. 環境関連法規制を遵守します。
2. 事業活動における CO₂排出量の削減に努めます。
3. 事業活動における廃棄物分別の徹底と排出量削減に努めます。
4. 建設現場等での建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。
5. 適切な利用により水使用量の削減に努めます。
6. 地域貢献活動を推進します。
7. 環境に配慮した設計・施工に努めます。
8. 快適な職場づくりを目指し、従業員の健康づくりに努めます。
9. 環境経営レポートを毎年作成し、全従業員に周知し、且つ一般に公開します。

制定日：2020 年 9 月 1 日
改良日：2022 年 9 月 1 日

大邦テクノプラント株式会社
工事部工事課部長 村上 錦司

4. 環境管理実施体制

エコアクション21 実施体制図



代表者 工事部工事課部長 村上 錦司	・環境経営に関する統括責任 ・環境管理責任者を任命 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・環境経営レポート承認
環境管理責任者 池田 智亮	・環境経営システムを構築・実施・管理 ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画を確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 ・環境経営計画の実施結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認 ・環境関連法規制等遵守評価の実施
環境事務局 玉木 光一郎	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境関連法規制等取りまとめ表の作成 ・環境教育訓練計画の作成と実施 ・特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む） ・環境経営目標の実績集計、評価 ・環境経営レポートの作成及びチェック、公開
工事部・総務課 部門長	・自部門における環境経営システムの運用 ・自部門の問題点の発見・是正・予防措置 ・自部門に関連する法規制等を遵守する ・自部門の教育を実施する
全従業員	・環境経営方針を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚 ・環境経営システムの自主参加

5. 環境経営目標・実績 2023年12月～2024年11月

○環境経営目標の達成手段

1) 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		達成手段	
1	電力使用量の削減	1	エアコンの適正使用（室内：夏 28℃、冬 20℃）
		2	不要な照明の消灯
		3	不使用パソコンの電源消灯
2	ガソリン・軽油使用量の削減	1	エコドライブの推進
		2	車両の定期点検

2) 廃棄物排出量の削減

取組目標		達成手段	
1	一般廃棄物排出量の削減	1	分別の徹底
		2	ペーパーレス化の推進
		3	両面印刷の促進
2	産業廃棄物排出量の削減	1	産業廃棄物の適正な処理
		2	マニフェストの管理の徹底
		3	建設混合廃棄物の削減
		4	発注前に再確認し、無駄な発注の削減
		5	紙を産廃ではなく、リサイクルへ適正処理
3	建設リサイクルの推進	1	特定建設資材の適正な処理
		2	再生資源を積極的に利用
		3	発生材の分別をこまめに行い、リサイクル化を推進

3) 水使用量の削減

取組目標		達成手段	
1	水使用量の削減	1	各自で節水、掲示物の取付

4) 快適な職場づくり

取組目標		達成手段	
1	時間外の削減	1	月 14 時間/人以内
2	有休取得率の向上	2	有休取得 6 日/年

5) 中期環境経営実績

年 度 項 目		基準年度実績 (2021 年)	本年度実績 2023 年 12 月～2024 年 11 月			中期目標	
		(基準値)	(目標)	(実績)	(達成度)	2024 年	2025 年
						(目標)	(目標)
電力使用量の削減	kWh	23,515	22,810	19,639	116%	22,574	22,339
	対基準年		△3%			△4%	△5%
二酸化炭素排出量①	kg-CO ₂	14,956	14,507	12,490		14,357	14,208
ガソリン・軽油 使用量の削減	ℓ	9,649	9,360	11,109	84%	9,263	9,167
	対基準年		△3%			△4%	△5%

年 度 項 目		基準年度実績 (2021 年)	本年度実績 2023 年 12 月～2024 年 11 月				中期目標	
							2024 年	2025 年
		(基準値)	(目標)	(実績)	(達成度)	(目標)	(目標)	
二酸化炭素排出量②	kg-CO ₂	22,750	22,068	26,477		21,840	21,612	
二酸化炭素排出量 計 ①+②	kg-CO ₂	37,706	36,575	38,937	94%	36,197	35,820	
一般廃棄物の削減 (可燃ごみ)	kg	137	133	106	125%	132	130	
	対基準年		△3%			△4%	△5%	
産業廃棄物の削減	kg	7,618	7,389	7,653	96%	7,313	7,237	
	対基準年		△3%			△4%	△5%	
建設リサイクルの推進 特定建設資材の適正な処理	%	85%	85%	84%	×	85%	86%	
水使用量の削減	m ³	209	203	183	111%	201	199	
	対基準年		△3%			△4%	△5%	
化学物質使用量削減 (適正管理)	—	適正管理	適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理	
快適な職場づくり	時間外 時間	2,266	2,198	2,829	128%	2,175	2,153	
	対基準年		△3%			△4%	△5%	
環境に配慮した施工	%	100%	100%	100%	○	100%	100%	

※ 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、中国電力2018年度実績0.636kg-CO₂/kWh（調整後排出係数を使用）
 ※ 一般廃棄物は可燃ごみを対象とし有価物は除く。※事務所、工事現場ともに環境負荷は低いため、一括して目標設定する。

6. 環境経営計画の結果とその評価（2023 年 12 月～2024 年 11 月）

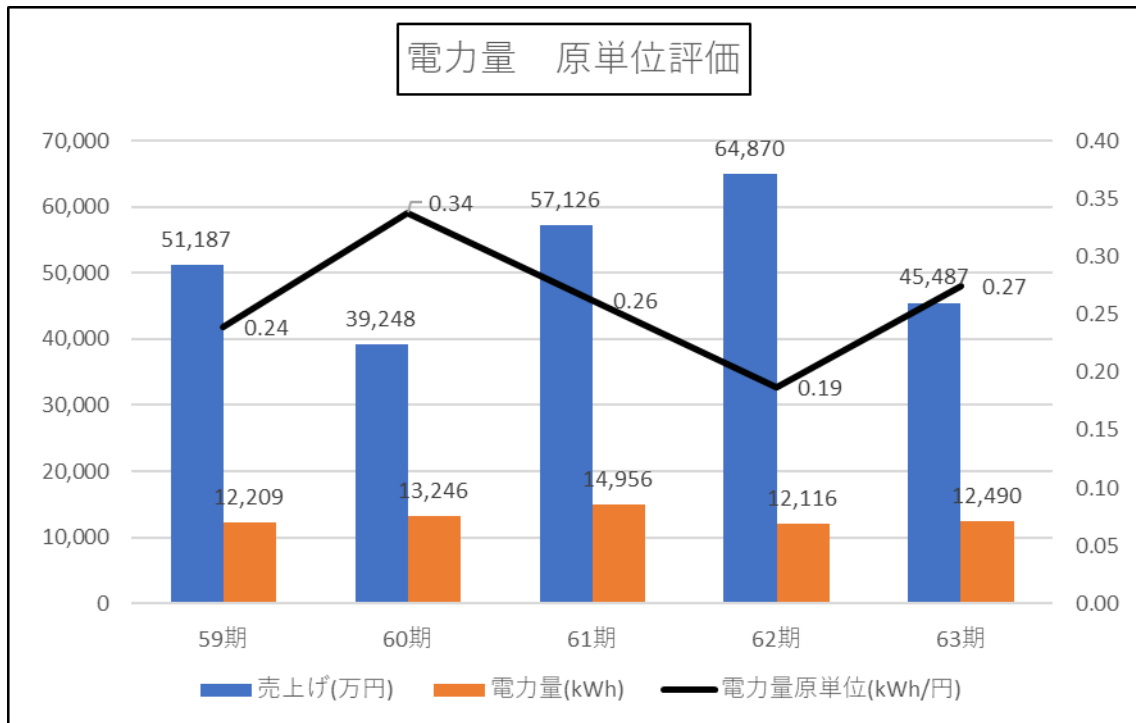
方針	目標数値	実績	評価
二酸化炭素排出量（kg-CO ₂ ）			
電力使用量の削減	14,507	12,490	○
自動車燃料の削減（ガソリン、軽油）	22,068	26,477	×
廃棄物排出量の削減（kg）			
一般廃棄物の削減	133	106	○
産業廃棄物の削減	7,389	7,653	△
建設リサイクルの推進（%）	85	84	△
水使用量の削減（m ³ ）	203	183	○
化学物質使用量削減（適正管理）	適正管理	適正管理	○
快適な職場づくり（時間）	2,198	2,829	×
環境に配慮した施工（%）	100	100	○

※ 結果と評価については別途添付原価単位評価にても確認・評価を行うこととする。
 2023 年度の CO₂ 総排出量は 39,183kg-CO₂/年でした。

7. 原価単位における実績とその評価 (59期～63期)

○売上と電力量(kWh)における原単位評価

	売上(万円)	電力消費量(kWh)	電力消費量原単位(kWh/円)
59期	51,287	12,209	0.24
60期	39,248	13,246	0.34
61期	57,126	14,956	0.26
62期	64,870	12,116	0.19
63期	45,487	12,490	0.27



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

今期では原単位 0.15(kWh/円)を目標としていましたが現場の工期延長等の影響で売上げが下がり達成をすることが出来ませんでした。電力消費量は昨年とほぼ横ばい、目標値としては達成が出来ました。

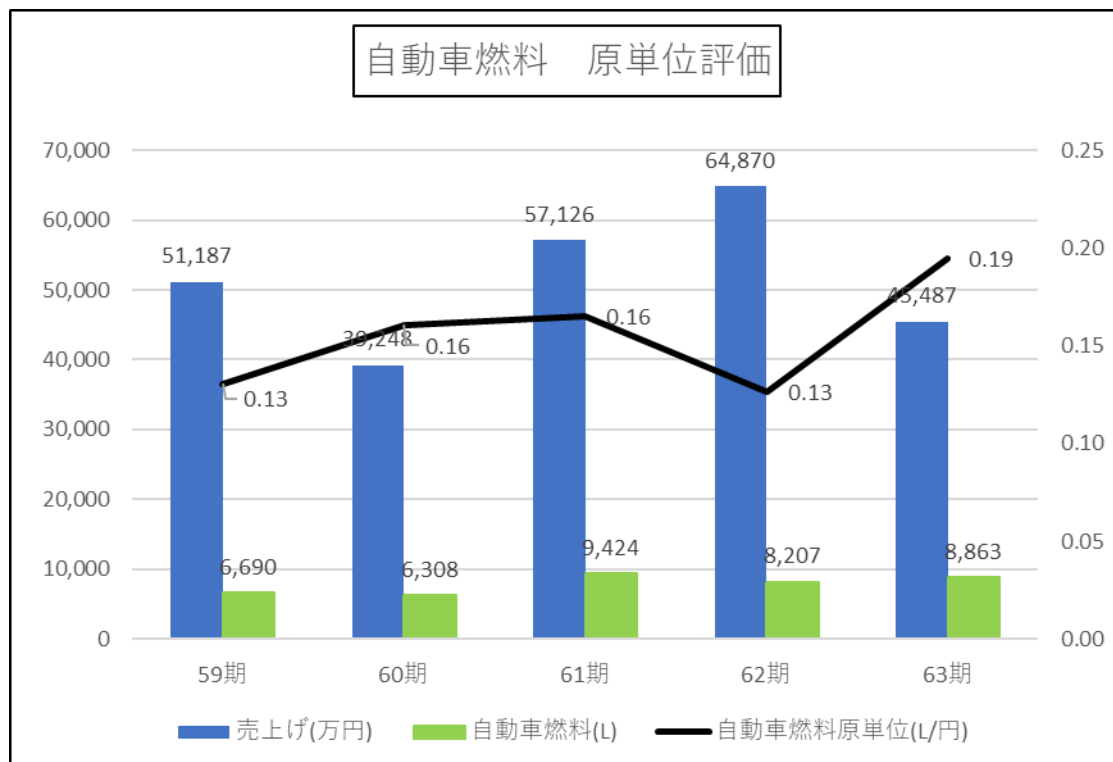
電力量の削減の意識は各々が出来ながら業務を行っていると思います。引き続き継続していきます。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

来期は原単位 0.15(kWh/円)を目標に進めましょう。電力削減はこまめに電気を消す、エアコンの温度を適正にする等、各々が気に掛けることで削減が出来る項目です。目標値を周知することで達成出来るように努めて下さい。また、残業も電力量に関係をしてきますので削減が出来るように引き続きよろしくお願いします。

○売上と自動車燃料(ℓ)における原単位評価

	売上(万円)	自動車燃料(ℓ)	自動車燃料原単位(ℓ/円)
59期	51,287	6,690	0.13
60期	39,248	6,308	0.16
61期	57,126	9,424	0.16
62期	64,870	8,207	0.13
63期	45,487	8,863	0.19



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

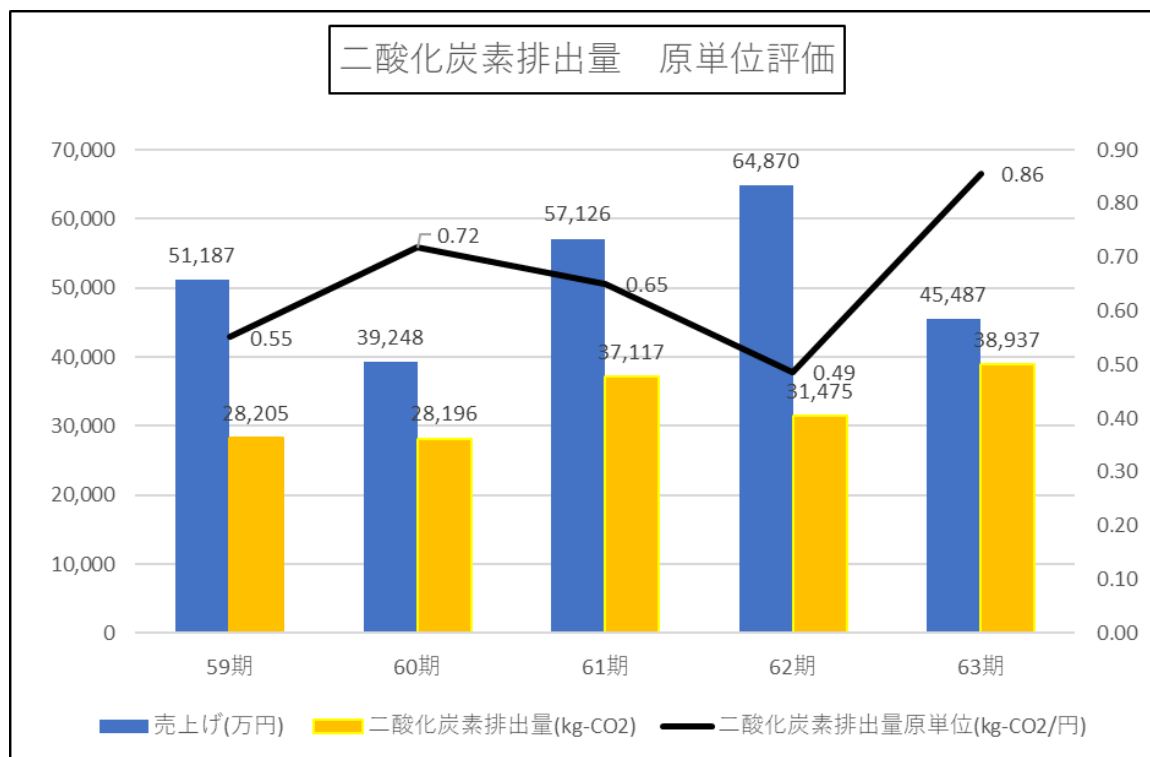
売上が下がったこと、遠方現場への通い等で消費燃料の増によって原単位・消費量共に目標の達成が出来ませんでした。車が無いと業務が成り立ちません。そのような場合の目標値の設定、対策等を考え直す必要があるかもしれません。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

原単位を売上げ(円)から「人」、「現場数」、「現場までの距離(km)」等に変更の検討が必要かもしれません。来期については検討し反映していきましょう また、社有車の買替を検討していますので、1台でもエコカーを導入し削減に努めていきましょう。

○売上と二酸化炭素排出量(kg-CO₂)における原単位評価

	売上(万円)	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	CO ₂ 排出量原単位(kg-CO ₂ /円)
59期	51,287	28,205	0.55
60期	39,248	28,196	0.72
61期	57,126	37,117	0.65
62期	64,870	31,475	0.49
63期	45,487	38,937	0.86



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

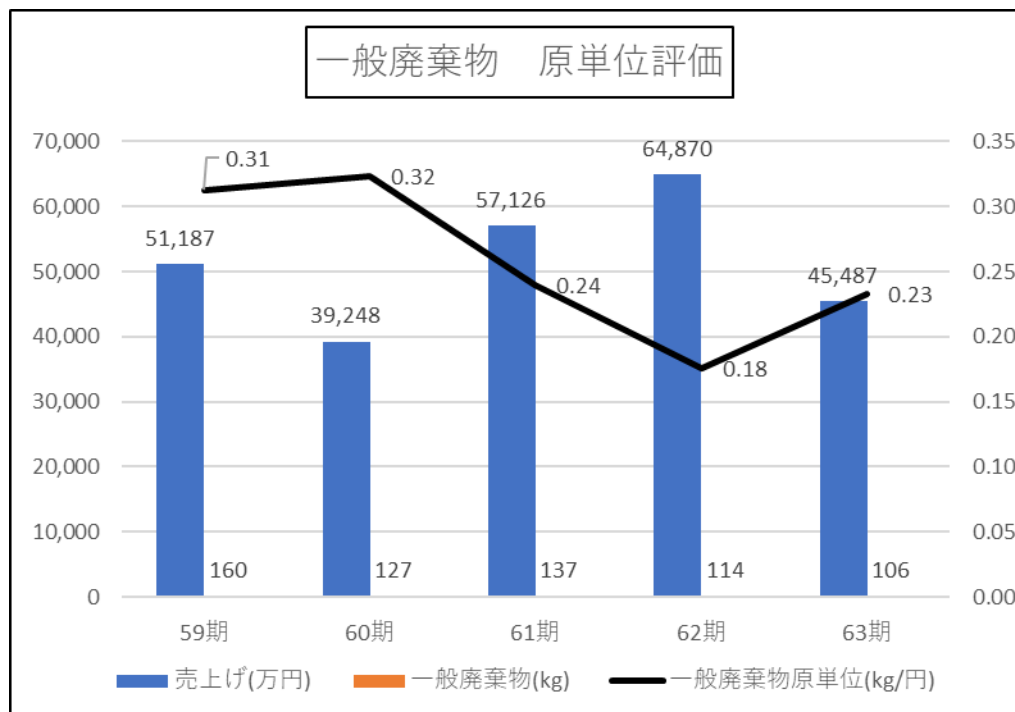
売上げ減でしたが、電力量については残業の増加による照明、エアコン等の使用時間が増加、車両燃料は遠方の現場の影響が大きく、CO₂排出量が増加し、過去最大の原単位となってしまいました。現場までの距離は私たちでは操作出来ませんので、まずは、残業を減らすことにより電力消費量削減に努めて行きたいと思います。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

原単位を売上げにしていますので、毎年増減によって影響があると思います。年末から年度末にかけての繁忙期に業務を効率的に、残業を削減するかにもよって使用電力量が削減でき、CO₂排出量削減に大きく関わると思いますので各上長へ残業の管理、業務の平準化を指示していきましょう。また、残業申請書の提出を徹底してください。

○売上と一般廃棄物(kg)における原単位評価

	売上(万円)	一般廃棄物(kg)	一般廃棄物原単位(kg/円)
59期	51,287	160	0.31
60期	39,248	127	0.32
61期	57,126	137	0.24
62期	64,870	114	0.18
63期	45,487	106	0.23



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

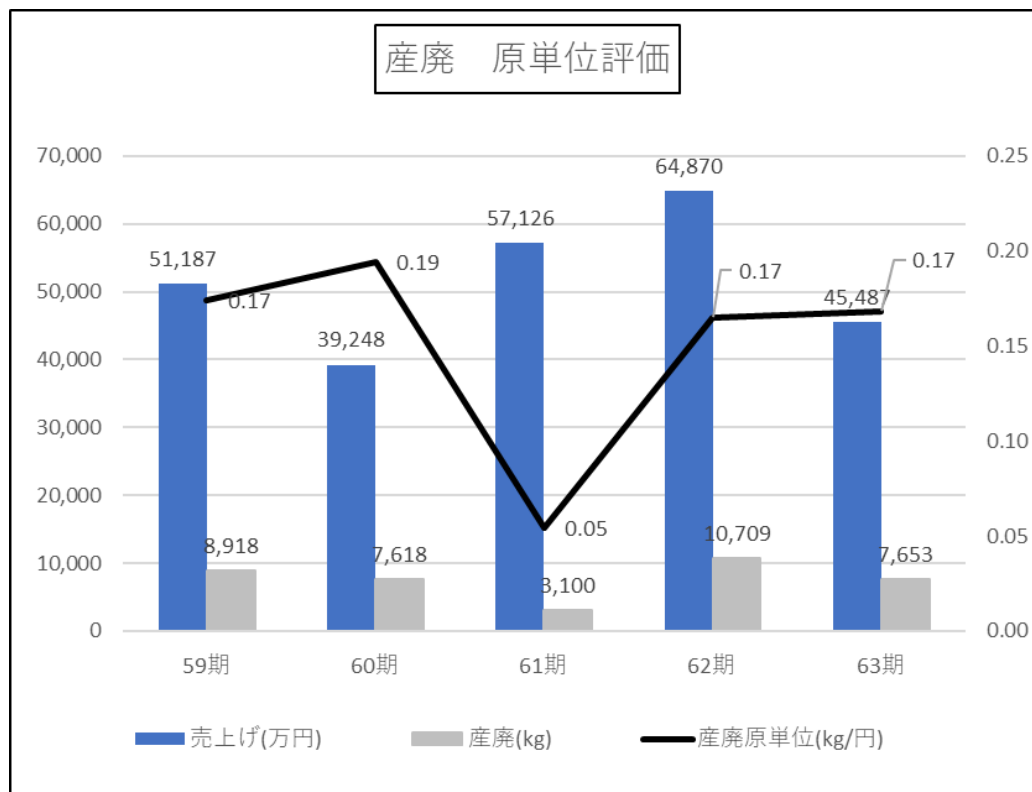
排出量は引き続き削減が出来ました。しかし、原単位的は売上が下がったことにより悪化しました。排出量については今後も引き続き削減できるように進めていきたいと思ひます。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

売上が低かったこともありますが、毎年削減出来ており、各々の意識ある行動が数値として現れました。売上が上がると増える傾向になると思ひますので忙しい中でも削減が出来るように周知・声掛けをお願いします。また、改めて分別の仕方を周知して進めてください。

○売上と産業廃棄物(kg)における原単位評価

	売上(万円)	産業廃棄物(kg)	産業廃棄物原単位(ℓ/円)
59期	51,287	8,918	0.17
60期	39,248	6,308	0.19
61期	57,126	9,424	0.05
62期	64,870	8,207	0.17
63期	45,487	8,863	0.17



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

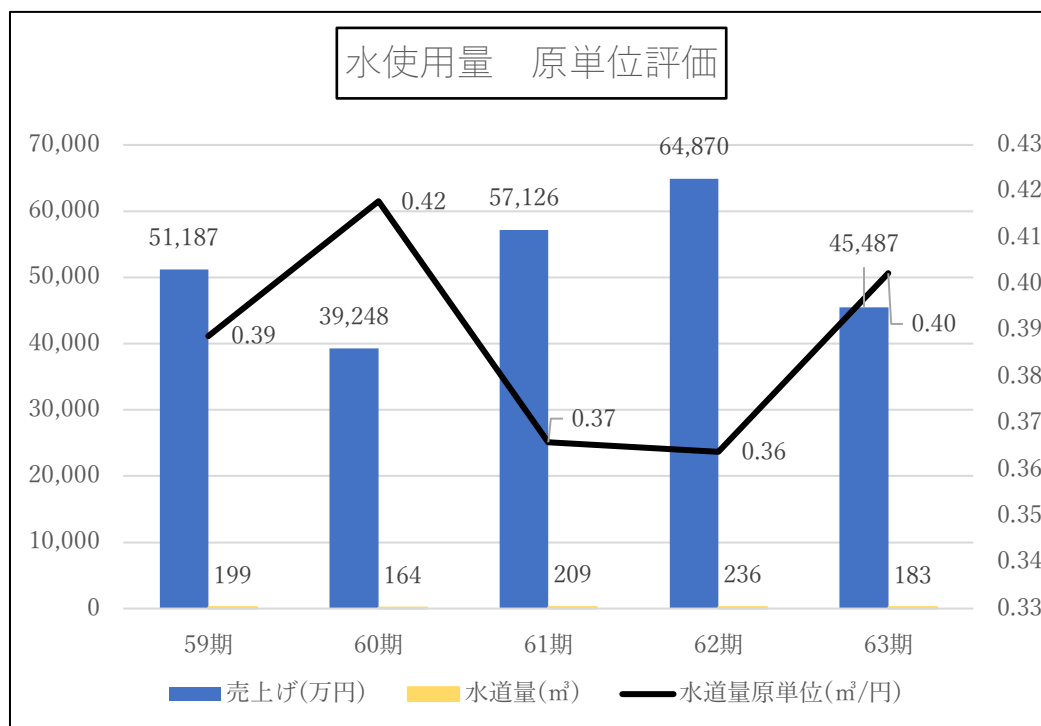
今期は前期より産廃排出量削減は出来ました。しかし、混廃量は削減できませんでした。また、原単位については売上が下がったこともあり横ばいとなりました。
産廃排出量自体は削減が来ているので引き続き対策を推進していきたい。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

63期も引き続き分別の意識が向上してきたように思います。今期については産廃自体の量の削減も来ているので引き続き継続をするとともに、原単位について売上げが最適であるか検討をしていきましょう。

○売上と水使用量(m³)における原単位評価

	売上(万円)	水使用量(m ³)	水使用量原単位(m ³ /円)
59期	51,287	199	0.39
60期	39,248	164	0.42
61期	57,126	209	0.37
62期	64,870	236	0.36
63期	45,487	183	0.40



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

水道水量は前期より比べ減少しましたが、売上も下がっていることにより原単位は増加しました。

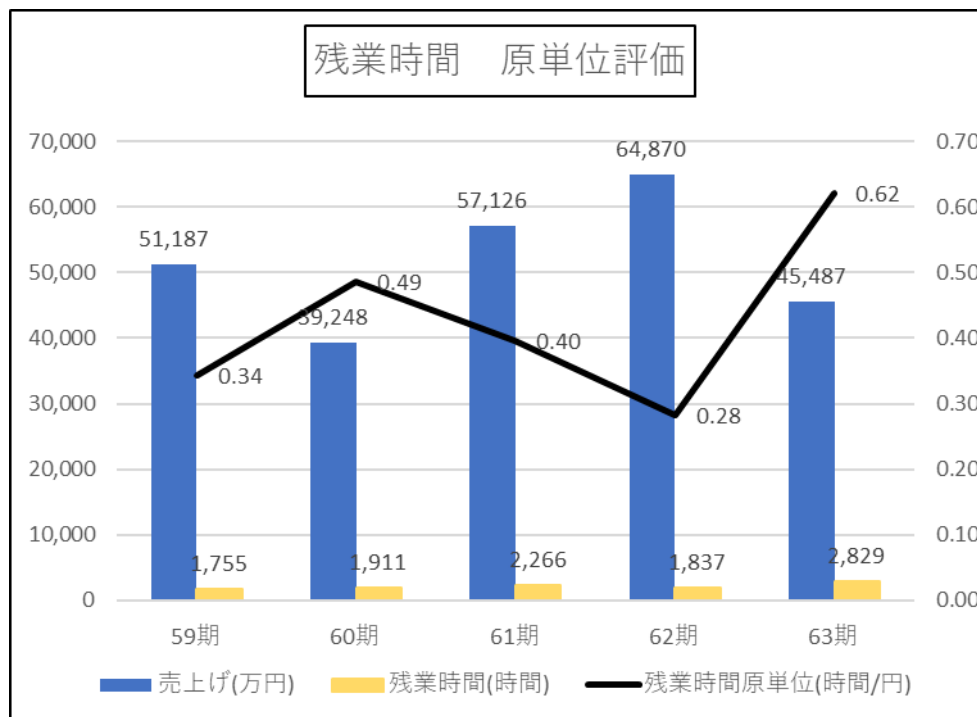
原単位 0.35(m³/円)以下を目標としていましたが、売上減により未達成となりました。しかし、使用量は減少傾向にあるので継続していきます。売上が上がると、使用量が増えることも考えられるので注意をしたいと思います。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

引続き原単位的の数値だけでなく、減少傾向である事を担当者に伝え、引き続き削減出来るようにお願いします。来期については原単位 0.4(m³/円)以下を目標として、こまめな節水を再度周知し継続的な指導をお願いします。

○売上と残業時間(時間)における原単位評価

	売上(万円)	残業時間(時間)	残業時間原単位(時間/円)
59期	51,287	1,755	0.34
60期	39,248	1,911	0.49
61期	57,126	2,266	0.40
62期	64,870	1,837	0.28
63期	45,487	2,829	0.62



◇達成状況/是正策 (実施責任者)

全体的に目標値は達成できませんでした。予定外の工程変更や人員配置で数値が増加しましたが、お客様第一で安全に納品できるよう進めて行きたいと思います。

◇評価/指示 (環境管理責任者・代表者)

全体を通して残業の増減が無く閑散期と言える時期が無い為、本来準備期間中の時期も残業が増えていると考えられます。残業の付替えとならないような業務分担を心掛けてください。残業を削減することで電力消費量、二酸化炭素排出量の削減に繋がります。

8. 環境関連法規等の遵守状況及び違反訴訟などの有無

2023 年 11 月に下記の環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反は有りませんでした。
また、関係機関からの指摘、利害関係者等からの訴訟及び苦情も有りませんでした。

主な環境関連法規名	主な遵守事項	遵守状況
建設リサイクル法 (建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律)	建設廃棄物の発生とリサイクル推進特定建設資材廃棄物の分別・再資源化	○
廃棄物処理法 (排出事業者として)	産業廃棄物処分委託 マニフェストの交付・管理 産業廃棄物の保管基準	○
フロン排出抑制法	室外機の圧縮機の電気出力が 7.5kW を越える機器は 3 年に 1 回の定期点検、7.5kW 以下の機器を含め 3 か月に 1 回の簡易点検実施	○
道路交通法	年 1 回の安全運転管理者等の法定講習の受講 毎月の車両点検、運行管理月報の作成	○

9. 代表者による全体の評価と見直し

産業界では技術の進歩に伴い半導体の需要が日々高まっている中、新型コロナウイルスの世界的流行をはじめとした社会情勢の悪化に伴う供給量の低下が騒がれて久しい昨今、電気工事を主体としている当社にとって半導体の影響による機器メーカー様からの制御盤製作の遅延（約 1 年）、ケーブル、電材も手に入りにくい状況が続いております。半導体不足は徐々に改善方向にありますが、2025 年以降にも影響が続く可能性があります。

昨年度の経験を活かし、早めの調達計画を行うと共に、インフラの裏方として社員一丸となって設備を納めていきましょう。

当社は良い地球環境や自然環境を次世代に残すための取り組みの大切さを社員全員が認識し、4 年目のエコアクション 21 の取り組みを行いました。

過去には評価基準に原価単位評価を取り入れ業績や業務量に応じた評価への見直し及び産廃コンテナの分別を実施することで混合廃棄物の削減に取り組みましたが、思ったような結果に繋がっていないのが実状です。

今期の反省点を踏まえ来期の取組みでは、引続き原価単位評価内容の共有を行うと共に実状に即した目標の見直しを行い、改善点の細分化を行うことで改善活動の推進に邁進してまいります。

また、エコカーの導入を推進しています。今期はプリウス 1 台、プロボックス（ハイブリッド車）1 台への車両入れ替えを行いました。今後も車両の入れ替えや追加において環境負荷の少ない車両の選定とエコカー導入におけるメリットデメリットについても検証を行っていきます。

労働者不足や高齢化の問題のほか時間外労働の上限規制など建設業界全体としては非常に厳しい条件が続くなかで、業務の集中化やメンタルに支障をきたすなどといった課題が顕在化してきていると考えられます。社内 DX をはじめ社内外を問わずコミュニケーションを強化し、多様な働き方に柔軟に対応して行く事で労働時間の平滑化を図り改善して行くことで心身ともに健康的な職場づくりを進めていきましょう。

10. 次年度の環境経営計画及び目標

環境経営計画（64期：2024年12月1日～2025年11月30日）

1) 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		達成手段	
1	電力使用量の削減	1	エアコンの適正使用（室内：夏 28℃、冬 20℃）
		2	不要な照明の消灯
		3	不使用パソコンの電源消灯
2	ガソリン・軽油使用量の削減	1	エコドライブの推進
		2	車両の定期点検
		3	車両の点検整備を1ヶ月に1回行う
		4	不要な荷物を降ろし、車内の整理整頓

2) 廃棄物排出量の削減

取組目標		達成手段	
1	一般廃棄物排出量の削減	1	分別の徹底
		2	ペーパーレス化の推進
		3	両面印刷の促進
2	産業廃棄物排出量の削減	1	産業廃棄物の適正な分別・処理と紙のリサイクル
		2	マニフェストの管理の徹底
		3	建設混合廃棄物の削減
		4	発注前に再確認し、無駄な発注の削減
		5	紙を産廃ではなく、リサイクルへ適正処理
3	建設リサイクルの推進	1	特定建設資材の適正な処理
		2	再生資源を積極的に利用
		3	発生材の分別をこまめに行い、リサイクル化を推進

3) 水使用量の削減

取組目標		達成手段	
1	水使用量の削減	1	各自で節水、掲示物の取り付け
		2	社用車の洗車時の節水の励行

4) 化学物質使用量削減（適正管理）

取組目標		達成手段	
1	化学物質使用量の把握及び適正管理	1	SDS を利用した PRTR 該当化学物質の確認及び把握
		2	必要に応じて PRTR 法該当以外の化学物質への変更

5) 快適な職場づくり

取組目標		達成手段	
1	時間外の削減	1	月 20 時間/人以内（早朝移動残業は除く）
		2	残業許可申請書の提出の徹底
2	有休取得率の向上	1	有休取得 6 日/年

中期環境経営目標

環境経営目標	単位	基準年	目標			
		2021 年度 (60 期)	2024 年度 (64 期)	2025 年度 (65 期)	2026 年度 (66 期)	
1) 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	37,706	(4%減) 36,197	(5%減) 35,820	(6%減) 35,444	
(1) 電気使用量削減	kWh	23,515	(4%減) 22,574	(5%減) 22,339	(6%減) 22,104	
(2) ガソリン使用量削減	ℓ	8,435	(4%減) 8,098	(5%減) 8,013	(6%減) 7,929	

環境経営目標		単位	基準年	目標		
			2021 年度 (60 期)	2024 年度 (64 期)	2025 年度 (65 期)	2026 年度 (66 期)
	(3) 軽油使用量削減	ℓ	1,214	(4%減) 1,165	(5%減) 1,153	(6%減) 1,142
2) 一般廃棄物排出量の削減		kg	137	(4%減) 132	(5%減) 130	(6%減) 129
3) 産廃排出量の削減		kg	7,618	(4%減) 7,313	(5%減) 7,237	(6%減) 7,161
4) 水使用量の削減		m³	209	(4%減) 201	(5%減) 199	(6%減) 196
5) 化学物質使用量削減 (適正管理)		—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
6) 快適な職場づくり		時間	2,266	(4%減) 2,175	(5%減) 2,153	(6%減) 2,130

※ 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、中国電力2018年度実績0.636kg-CO₂/kWh（調整後排出係数を使用）

※ 一般廃棄物は可燃ごみを対象とし有価物は除く。事務所、工事現場ともに環境負荷は低いため、一括して目標設定する。

※ 65 期は 2025 年 12 月 1 日～2026 年 11 月 30 日

※ 66 期は 2026 年 12 月 1 日～2027 年 11 月 30 日